第５次石巻市男女共同参画基本計画　評価指標の検討　　【 資 料 １】

１　目標値の設定

暫定目標値としていた評価指標項目について、目標値の設定（確定）

【基本目標１　政策形成及び方針決定の場への女性の参画推進】

ＫＧＩ（評価指標目標）	第５次計画策定時現状値（R6）	第５次計画目標値（R12）	令和８年度市民意識調査結果	再設定目標値（案）（R12）	目標値設定根拠
施策や地域活動に女性が参画していることを実感している市民の割合	－％	※57.0％（暫定）	**31.6％** 実感している市民の割合	**47.0％**	【目標値設定根拠】 令和８年度市民意識調査結果 ① 実感している市民の割合：31.6％（感じる：6.0％、やや感じる：25.6％） ② 実感していない市民の割合：30.2％（あまり感じない：23.3％、感じない 6.9％） 令和 12 年度の目標値については、女性の参画を実感する市民の割合をさらに高めることを目指し、実感している市民の割合 31.6％に、実感していない市民の割合を半減させた場合の 15.1 ポイントを加えた 46.7％≒47.0％とする。 【考え方】 女性の参画を進めるためには、審議会等の委員や地域活動の担い手として女性が実際に参画することに加え、その状況が市民に認識され、地域の中で女性の参画が進んでいると実感できることが重要である。この指標により、施策や地域活動における女性の参画状況が市民にどの程度実感されているかを把握し、女性の参画を広げる取組の成果や、今後の普及啓発の必要性を確認する。

※策定時において現状値が確認できない項目であったことから、暫定的にＲ７市民アンケートの類似設問結果による目標値としていたもの。

２　目標値の再設定

令和７年度実績が第５次計画の目標値を既に達成している評価指標項目について、目標値の再設定を検討

【基本目標１　政策形成及び方針決定の場への女性の参画推進】

ＫＰＩ （評価指標目標）	第５次計画 策定時現状値 （R6）	第４次計画 最終年度 実績値 （R7）	第５次計画 目標値 （R12）	再設定 目標値（案） （R12）	目標値設定根拠
女性人材リストにおける審議会等へ登用された委員の割合	22.4％	25.7％	25.0％	**30.0％**	【目標値設定根拠】 第４次計画における「女性人材リストにおける審議会等へ登用された委員の割合」は、R3(初年度)は 22.6％、R7(最終年度)は 25.7％であり、年平均増加率は約３％となる。【(25.7÷22.6) ^(1/4)-1=0.032657)】 令和 12 年度の目標値については、上記年平均増加率約３％を踏まえ、29.8％≒30.0％と算定。また、令和８年度第１回審議会での「目標値が低い」との御意見及び国・県における女性の参画拡大の方向性も踏まえ、30.0％を目標値とする。 【考え方】 女性の参画を政策形成及び方針決定の場で実質的に進めるためには、審議会等の委員候補となる女性人材の裾野を広げるとともに、登録された人材が実際の委員として登用されることが重要である。女性人材リストの登録者数だけでは、リストが審議会等への登用にどの程度結び付いているかを把握できないことから、まずは女性人材リストの登録者数を増やし、審議会等の委員候補となる女性人材の裾野を広げる。その上で、女性人材リストを積極的に活用し、リスト登録者から審議会等へ登用される委員を増やすことで、女性の参画拡大につなげる。

ＫＰＩ （評価指標目標）	第５次計画 策定時現状 値 （R6）	第４次計画 最終年度 実績値 （R7）	第５次計画 目標値 （R12）	再設定 目標値（案） （R12）	目標値設定根拠
市の管理的地位（ポスト補佐含む。）にある職員に占める女性の割合	29.6%	31.7%	30.0%	**30.0%**	【目標値設定根拠及び考え方】 国の第６次男女共同参画基本計画及び石巻市特定事業主行動計画との整合性に加え、今後の組織体制の変化を踏まえ、継続的に確保すべき水準として目標値を３０．０％と設定した。 令和７年度の実績値は３１．７％と目標値を上回っているが、少子化に伴う保育所、幼稚園の統廃合等による管理的ポストの減少が見込まれる中、３０％以上を安定的に維持するためには、幅広い職域において女性職員の育成と登用を一層進める必要がある。 このことから、３０％を目標の上限とするものではなく、継続的に確保すべき水準と位置付け、更なる向上に取り組むこととする。

◆参考◆

○国　第６次男女共同参画基本計画（成果目標　2030 年末）

・市町村職員の各役職段階に占める女性の割合：本庁係長相当職　40%、本庁課長補佐相当職　34%、本庁課長相当職　24%、本庁部局長・次長相当職　16%

○宮城県男女共同参画基本計画（第 5 次）

・県の管理職に占める女性の割合（知事部局の本庁課長級以上の職員）：15%（令和 12 年度）

○仙台市　男女共同参画せんだいプラン 2026

・市役所における女性管理職員の割合（市長部局のみ）：30%以上（令和 10 年度）

３　指標項目の表現変更

指標内容が明確になるよう表現を整理

【基本目標５　男女間におけるあらゆる暴力の根絶と被害者支援の推進】

ＫＰＩ（評価指標目標）	ＫＰＩ（評価指標目標） 変更案	変更理由
ＤＶの内容について正しく理解している人の割合	**ＤＶについて、身体的暴力だけでなく、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力、社会的暴力も含まれていることを知っている人の割合**	【表現の変更】 「正しく理解する」といった表現について、令和８年度第１回審議会において確認があった。対象となる内容を明確にするため、表現を変更する。 ※これまでもアンケート実施時には、身体的暴力だけでなく、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力、社会的暴力も含まれていることの説明を付して実施している。

４　指標項目の変更及び目標値の再設定

認知度のみを把握する指標について、理解度を把握できる指標への見直しを検討

【基本目標２　地域・学校における男女共同参画の推進】

ＫＰＩ（評価指標目標）	第５次計画 策定時現状値 (R6)	第５次計画 目標値（R12）	ＫＰＩ（評価指標目標） 変更案	第５次計画 策定時現状値 (R6)	第５次計画 目標値（R12）
性的マイノリティ又はＬＧＢＴという言葉を知っている人の割合	83.8%	87.4%	**性的マイノリティ又はＬＧＢＴの内容を理解している人の割合**	64.0%	**80.5%**

変更理由及び目標値設定根拠

【指標の変更及び考え方】

性的マイノリティに関する理解を深めることは、性の多様性を尊重し、一人ひとりの個性や生き方を認め合う男女共同参画社会を実現する上で重要である。言葉を知っているだけでなく、その内容を理解することが、無意識の偏見や誤解をなくし、誰もが自分らしく安心して暮らせる地域づくりにつながることから、市民が性的マイノリティについてどの程度内容を理解しているかを把握し、理解促進に向けた啓発活動の成果や今後の取組の必要性を確認するため、本指標を「言葉を知っている」から「内容を理解している」に変更するもの。

単に言葉を知っているかではなく、その内容や考え方を理解していることが重要という、令和８年度第１回審議会意見を反映。

【目標値の変更】

第５次計画策定時（R6）市民意識調査結果

① 言葉と内容を知っている割合：64.0%（言葉も意味も知っている：28.7%、言葉を知っており、一部については理解している：35.3%）

② 意味は分からない及び初めて聞いた割合：33.1%（言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない：19.8%、初めて聞いた：13.3%）

令和 12 年度の目標値については、「言葉と内容を知っている割合」をさらに高めることを目指し、知っている割合 64.0%に、「意味は分からない及び初めて聞いた割合」を半減させた場合の 16.5 ポイントを加えた 80.5%とする。

【基本目標５　男女間におけるあらゆる暴力の根絶と被害者支援の推進】

ＫＰＩ（評価指標目標）	第５次計画 策定時現状値 （R6）	第５次計画 目標値（R12）	ＫＰＩ（評価指標目標） 変更案	第５次計画 策定時現状値 （R6）	第５次計画 目標値（R12）
石巻市総合相談センターを知っている人の割合	48.4％	70.0％	**石巻市総合相談センターの名称と相談できる内容を知っている人の割合**	11.0％	**50.3%**

変更理由及び目標値設定根拠

【指標の変更及び考え方】

男女間におけるあらゆる暴力の根絶や、困難な状況にある女性への支援を進めるためには、相談を必要とする人が、悩みや状況に応じて適切な相談先につながることが重要である。そのためには、総合相談センターの名称を知るだけでなく、どのような悩みや困りごとについて相談できるのかを理解していることが必要であることから、石巻市総合相談センターの名称と相談できる内容の認知状況を把握し、相談窓口の周知が、必要な人の相談・支援につながるための理解促進に結び付いているかを確認するため、本指標を「センターを知っている」から「名称と相談できる内容を知っている」に変更するもの。

単なる認知度ではなく、理解度を把握する。若い世代を中心に相談窓口そのものを知らないこと、また「総合相談センター」という名称だけでは、どのような相談ができるのか分かりにくいという、令和８年度第１回審議会意見を反映。

【目標値の変更】

第５次計画策定時（R6）市民意識調査及び保育所保護者アンケート結果

① 名称も支援内容も知っている割合：11.0％

② 名称は聞いたことがある及び知らない割合：78.6％（名称は聞いたことがある：36.1％、全く知らない：42.5％）

令和 12 年度の目標値については、「言葉と内容を知っている割合」をさらに高めることを目指し、知っている割合 11.0％に、「名称は聞いたことがある及び知らない割合」を半減させた場合の 39.3 ポイントを加えた 50.3％とする。